



全国私立大学 FD 連携フォーラム 2014 年度 総会

日 時：2014 年 6 月 14 日（土）13：00～14：00

会 場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S405 教室

司会進行

沖裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長

開会挨拶

代表幹事校挨拶

児美川孝一郎 法政大学 教育開発支援機構 FD推進センター長

【審議事項】

1. 議事録確認（2013 年度総会）
2. 2013 年度活動報告および 2014 年度活動方針・計画
3. 2013 年度決算
4. 2014 年度予算（案）

【報告事項】

1. 2014 年度の体制について
2. 新規入会校について
3. 企画への後援・共催の基準について
4. 監査手順の見直しについて
5. フォーラム企画等における講師依頼について（申し合わせ事項の変更）
6. 2014 年度実践的 FD プログラムについて

閉会挨拶

田中俊也 関西大学 教育開発支援センター長

2014年度 全国私立大学FD連携フォーラム 総会 出席者名簿

大学	所属	役職	氏名
愛知大学	名古屋教務課	書記(FD委員会)	鳥居広志
青山学院大学	学務部 教育支援課	課長	戸田 隆也
神奈川大学	教育支援センター	課長	旭 馨
関西大学	教育開発支援センター	センター長	田中俊也
関西学院大学	教務機構事務部(高等教育推進センター担当)	課長	富田 則幸
関東学院大学	高等教育研究・開発センター	次長	松下 倫子
北里大学	高等教育開発センター、薬学部	センター長	石井 邦雄
京都産業大学	学長室(教育支援研究開発担当)	課長	森 洋
甲南大学	大学企画室	次長	美馬久美子
國學院大學	教育開発推進機構		中山 郁
國學院大學	教育開発推進機構、教学事務部 教務課	書記	関口 久美子
国士舘大学	FD推進室	課長	鷹取 寛行
国士舘大学	FD推進室		安東 洋
芝浦工業大学	教育イノベーション推進センター、工学部		榊原 暢久
芝浦工業大学	教育イノベーション推進センター		ホートン 広瀬 恵美子
芝浦工業大学	教育イノベーション推進センター事務課	課員	細田 薫
創価大学	総合学習支援オフィス	副部長	池ヶ谷 浩二郎
中央大学	学事部 企画課	課長	金井 尚也
中央大学	学事部 企画課		水迫 拓摩
中部大学	大学教育研究センター	次長	西川 鈺治
帝京大学	高等教育開発センター		上岡 真紀子
東京農業大学	学務部	部長	菅原 敏之
東京農業大学	学務部	次長	大塚 寛
東京農業大学	学務部 教務課	課長補佐	山形 一
同志社大学	学習支援・教育開発センター事務室 教育企画係	係長	野田 宣彦
東北学院大学	法学部	副学長	齋藤 誠
東洋大学	FD推進センター	FD推進センター長	神田雄一
東洋大学	FD推進支援室	課長	田中明紀
日本大学	FD推進センター、経済学部	副センター長	辻 忠博
日本大学	全学FD委員会、芸術学部	委員	鳥山 正晴
日本大学	本部 学務部 教育推進課	課長補佐	大嶽 龍一
日本大学	本部 学務部 教育推進課	主任	後藤 裕哉
福岡大学	教育開発支援機構、商学部	副機構長	中村信博
法政大学	FD推進センター	センター長	児美川孝一郎
法政大学	FD推進センター	FD推進プロジェクトリーダー	川上 忠重
法政大学	FD推進センター、教育支援課	課長	平山 喜雄
明治大学	教務事務部 教務事務室	書記	荒井 康雄

明星大学	全学FD委員会	委員長、副学長	服部 裕
明星大学	教務企画課	課長	岸部 亨
明星大学	教務企画課	主任	吉田 亮太郎
立教大学	大学教育開発・支援センター	課長	今田 晶子
立教大学	大学教育開発・支援センター		佐藤 百恵
立教大学	大学教育開発・支援センター		上原 裕輔
立命館大学	教育開発推進機構 教育開発支援センター	センター長	沖 裕貴
立命館大学	教育開発推進機構 教育開発支援センター	副センター長	安岡 高志
立命館大学	教育開発推進機構 教育開発支援センター		土岐 智賀子
立命館大学	教学部	次長	石坂 和幸
立命館大学	教育開発支援課	課長	清水 郁子
立命館大学	教育開発支援課		岡本 詠里子
龍谷大学	教学企画部	課長	井上 弓子
龍谷大学	大学教育開発センター	センター長	長谷川 岳史
早稲田大学	大学総合研究センター	副所長	菊池 英明
早稲田大学	大学総合研究センター	調査役	小牧 慎二
早稲田大学	大学総合研究センター		米内 達也



全国私立大学FD連携フォーラム 規約

【 第1章 総則 】

【 名称 】

第1条

この連携体は、全国私立大学FD連携フォーラム（以下「本フォーラム」という。）と称する。

【 目的 】

第2条

本フォーラムは、全国の中規模以上の私立大学が連携して、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することを目的とする。

【 活動 】

第3条

本フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の各号に定める活動を行う。

2. FDに関わる取組や研究の共同開発・実施
3. FDに関わる教材・資料・情報の提供・共有
4. 全国への情報発信（ホームページの作成、広報誌の発行など）
5. その他、前条の目的を達成するために必要な活動

【 第2章 会員校 】

【 会員校 】

第4条

全国の中規模以上の私立大学のうち、本フォーラムへの入会を希望するときは、幹事会に所定の届出を行い、承認を得ることにより、本フォーラムの会員校になることができる。

2. 前項の「中規模以上」とは、所属する総学生数が概ね8千人以上の大学とする。また、幹事会が会員校に相応しいと判断した大学もこれに含む。
3. 参加単位については、大学や機関等組織体による参加とする。
4. 会員校は、第3条に定めた諸活動に参加することができる。
5. 本フォーラムを退会するときは、本フォーラムの事務局に届け出なければならない。

【 会費 】

第5条

会員校は、本フォーラムの定めるところにより、毎年会費を納めなければならない。

【 第3章 組織 】

【 総会 】

第6条

本フォーラムは、原則として毎年1回総会を開催する。

2. 総会は、全会員校をもって構成する。
3. 各会員校は、当該会員校を代表して総会に出席する者1名をあらかじめ登録しなければならない。ただし、会員校に所属する他の者が、あらかじめ登録した者を代理し、または総会に陪席することを妨げない。
4. 総会は、次の事項を審議する。
 - (1) 会費に関する事
 - (2) 年度ごとの活動方針、活動報告に関する事（予算、決算報告を含む）
 - (3) 代表幹事校、幹事校および監査役の選出に関する事
 - (4) 規約の改正に関する事
 - (5) その他重要な事項
5. 前項に定めるもののほか、総会の議事の運営に関し必要な事項は、総会で定める。
6. 総会は、会員校の半数以上が出席しなければ、開会することができない。
7. 総会の議事は、出席の会員校の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長校が決する。

【 代表幹事校および幹事校 】

第7条

本フォーラムに 幹事校 12 校を置き、そのうち2校を地域担当幹事校とし、そのいずれかを代表幹事校とする

2. 幹事校は、会員校の中から任期の定めのない幹事校 10 校と任期の定めのある幹事校 2 校を選出し、総会で承認する。
3. 地域担当幹事校は、幹事校の中から 東日本地域、西日本地域担当を1校ずつ選出し、総会で承認する。
4. 事務局校は、幹事校から選出し、総会で承認する。
5. 代表幹事校は、地域担当幹事校より東日本、西日本交互に選出し、総会で承認する。
6. 代表幹事校は、総会および幹事会を招集し、議長校となる。

【 幹事会 】

第8条

本フォーラムに幹事会を置き、全幹事校で構成する。

2. 代表幹事校、地域担当幹事校、任期の定めのある幹事校および事務局校の任期は 2 年とする。ただし、地域いずれも再任を妨げない。

3. 幹事会は、次の事項を審議する。
 - (1) 地域担当幹事校、任期の定めのある幹事校および事務局校の推薦に関する事
 - (2) 本フォーラムの活動に係る企画立案に関する事
 - (3) 本フォーラムへの入会および退会に関する事
 - (4) 総会の議案に関する事
 - (5) 本フォーラムの運営に関する事
 - (6) その他重要な事項であって、緊急に決定を要する事
4. 幹事会が前項第6号の規定による決定をした場合には、総会その他の方法により、会員校に速やかに報告し、承認を受けなければならない。
5. 幹事会は、必要と認めるときは、幹事校以外の会員校または者を出席させて、説明または意見を聴くことができる。
6. 幹事会の運営については、この規約に定めるもののほか、幹事会で別に定める。

【 監査役 】

第9条

本フォーラムに監査役2校を置く。

2. 監査役は、会員校の中から選出し、総会で承認し、会計を監査する。
3. 監査役の任期は、2年とする。

【 ワーキング・グループ 】

第10条

本フォーラムの業務を遂行するため、ワーキング・グループを組織することができる。

2. ワーキング・グループの組織、運営等については、幹事会で別に定める。

附 則

1. この規約は、2008年12月6日から施行する。
2. この規約の施行後最初の代表幹事校、幹事校および監査役の任期は、総会で別途定める。

附 則 (2010年10月8日 第4条の2、第7条の2、第9条の2の一部改正)

この規約は、2010年10月8日から施行する。

附 則 (2012年6月16日 第7条、第8条の2、3、第11条の改正)

この規約は、2013年4月1日から施行する。

このページは白紙です



全国私立大学FD連携フォーラム 申し合わせ事項

【 講師依頼 】

1. 旅費（交通費）

- 1) 会員校以外から講師を招聘する場合
実費を支給する。
- 2) 会員校から講師を招聘する場合
支給しない。派遣大学内での対応とする。

2. 謝礼

- 1) 会員校以外から講師を招聘する場合
謝礼を支払う。謝礼額は30,000円を基本とする。
ただし、講師の経歴を勘案し、上限50,000円とする。
- 2) 会員校から講師を招聘する場合
原則として支払わない。ただし、講師の職務と異なる依頼内容の場合は別途判断し、支払う場合がある。

【 旅費支給 】

1. 対象

下記について、実費を支給する。

- 1) 地域担当幹事校2校、事務局校1校
ただし、
 - ・総会、ミーティング、地域別企画につき、各2名とする。
 - ・東日本地域または西日本地域から、西日本地域または東日本地域に移動が発生する場合とする。
- 2) 監査役2校
ただし、監査役1校につき、1名とする。

2. 旅費（交通費）

順路に従い、最も経済的かつ合理的な経路および方法により算定し、支給する。

- ・交通費は、鉄道賃および航空運賃とする。
- ・鉄道賃は、JR起点駅と用務地に最も近いJR駅間の往復にかかる通常期料金とする。
- ・新幹線を利用する区間は、新幹線の普通車指定席券相当分の金額とし、グリーン料金は支給しない。
- ・航空機を利用する場合は、半券・請求書を提出の上、エコノミークラスの運賃（実費）

を支給する。

- ・この基準以外の支給となる場合は、幹事校ミーティングで検討し、承認を得たうえで対応する。

3. 旅費（宿泊費）

原則として支給しない。ただし、やむをえず宿泊が必要な場合については、事前に代表幹事校の承認を得て、実費を支給する。

支払にあたっては、領収書を必要とし、支払の上限は、1泊につき12,000円とする。

4. 旅費の支払い

企画終了後、事務局校が支払請求書を作成し、後日振込払いする。

【 後援・共催 】

1. 後援

1) 対象

全加盟校が後援依頼を行うことが出来る。

2) 上限

上限回数は設けない。

3) 名義使用

全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）の名義の使用を許可する。
チラシ等の企画広報には、JPFFの名称、ロゴを掲載する。

4) 広報

HP掲載、メーリングリスト等での広報に協力する。

5) 支援内容

人的支援、資金的支援、会場支援等の支援は行わない。

2. 共催

1) 対象

各地域担当幹事校の募集に応じて、地域別企画として共催依頼を行うことが出来る。

2) 上限

東日本地域・西日本地域毎に、地域別企画として年2回（年間4回）を上限とする。

3) 名義使用

全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）の名義の使用を許可する。
チラシ等の企画広報には、JPFFの名称、ロゴを掲載する。

4) 広報

HP掲載、メーリングリスト等での広報に協力する。

5) 支援内容

- ・ 資金的支援として、1回の開催につき50,000円を支援する。本費用は企画の運営に係る費用（消耗品費、会議費用、会合費等）として使用することができる。
- ・ 人的支援（会員校に対して、講演者・パネリストとしての参加、企画への参加要請等）についても、可能な範囲内で実施する。

3. 申請方法

1) 後援

企画開催1ヶ月前までに、所定の講演願を事務局校に提出し、代表幹事校が承認する。

2) 共催

企画開催1ヶ月前までに、所定の共催願を事務局校に提出し、各地域幹事校、事務局の3校で回議のうえ、承認する。

このページは白紙です

全国私立大学FD連携フォーラム 2013年度 総会議事録

日 時：2013年6月15日（土）13:00～14:00

会 場：立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館1階 230号室

出席大学：(加盟大学)

愛知大学、青山学院大学、神奈川大学、関西大学、関西学院大学、九州産業大学、京都産業大学、甲南大学、国学院大学、芝浦工業大学、創価大学、中央大学、中部大学、帝京大学、東京農業大学、同志社大学、東北学院大学、日本大学、法政大学、名城大学、立教大学、立命館大学、龍谷大学、早稲田大学

(26大学中24大学)

(非加盟大学)

青山学院大学女子短期大学、関東学院大学、神戸学院大学、静岡大学、桃山学院大学(5大学・短期大学)

・開会挨拶

はじめに、司会者である長谷川 岳史 龍谷大学経営学部教授、大学教育開発センター長より開会の挨拶があった。

・会場校挨拶

森本 朗裕 立命館大学理工学部教授、教育開発推進機構長より会場校挨拶があった。

1. 2012年度総会(2012年6月16日)議事録について

承認。

2. 2013-2014年度の体制について

事務局校(立命館大学)より、はじめに「本来、2013年4月からの新代表幹事校から報告いただくべき性格であるが、総会としては本日の承認となること、体制が変わったばかりということから、事務局校からの報告とする」旨の説明があった。

次に「2013-2014年度の体制について」資料に基づく説明があり、これを承認。

承認後、代表幹事校(法政大学)および地域担当幹事校(法政大学(東日本担当)、関西大学(西日本担当))、任期の定めのある幹事校(創価大学、龍谷大学)より挨拶が行なわれた。

3. 監査役(2013-2014年度)について

事務局校より、「監査役(2013-2014年度)について」資料に基づき、2013年度～2014年度の監査役について神奈川大学、関西学院大学に任命するとの報告があり、これを承認。

4. 2012年度活動報告および2013年度活動方針・計画

事務局校より、「2012年度活動報告および2013年度活動方針・計画」資料に基づき、①2012年度活動報告、②2013年度活動方針、③2013年度活動計画概要、④年間スケジュールについて報告があり、これを承認。

また、会場については、各地域担当校および事務局校の施設を必要に応じて利用することについて補足があった。

<承認されたスケジュールは次の通り>

6月 ・2013年度 幹事会、総会・パネルディスカッション

7～9月 ・幹事校ミーティング

10月 ・会員校ミーティング、懇談会企画

3月 ・幹事校ミーティング

その他、地域別、分野別など各種懇談会の開催（日程未定）

5. 2012年度決算

事務局校より、「全国私立大学 FD 連携フォーラム 2012 年度決算」資料に基づく報告があった。

収入については、年会費が新規加盟校の内 1 校については事務手続きの関係で 2012 年度内の徴収ができなかったため、26 校分の収入となったこと、データベース構築のための積立金は予定通り 2012 年度と同額を設定してことが報告された。

支出については、備考に記載された内訳に関する説明があった。

監査報告については、「全国私立大学 FD 連携フォーラム 2012 年度監査報告」資料を参照し、本日出席の関西大学の田中先生から「決算関係証憑類は適正に処理されており、正常であることを認め、ここに報告します」との報告があった。

以上を踏まえ、本議題を承認。

6. 2013 年度予算（案）

事務局校より、「全国私立大学 FD 連携フォーラム 2013 年度予算（案）」資料に基づく報告があった。

収入については、29 校+2012 年度未収分の収入となったことが報告された。

支出については、備考に記載された内訳を中心に説明があり、総会関係経費は実際の経費で算出したこと、ニュースレターについては従来の 3 月だけでは新体制の紹介が相当遅れることから、9 月と 3 月の 2 回発行を予定すること、予備費は各地域毎の企画を実施することも想定して増やしていること等の説明があった。

以上を踏まえ、本議題を承認。

7. 新規入会校（2012 年度総会以降）について（報告）

事務局校より、「新規入会校（2012 年度総会以降）について」資料に基づく報告があり、これを承認。2012 年度総会以降に加盟した 4 大学（九州産業大学、明星大学、日本大学、愛知大学）から夫々挨拶があった。

なお、他に関東学院大学が大学として加盟を決定されたという連絡を受けたことが合わせて報告された。これにより加盟校は、総計 30 校となる。

8. 2013 年度に提供する実践的 FD プログラムについて（案内）

実践的 FD プログラム担当の土岐 智賀子 立命館大学教育開発推進機構 講師より、公開ワークショップとビデオ・オン・デマンドについての案内があった。

・閉会挨拶

司会者である長谷川 岳史 龍谷大学経営学部教授、大学教育開発センター長より閉会の挨拶があり、以上をもって 2013 年度総会を終了した。

*その他

総会に引き続き、以下のパネルディスカッションが開催された。

○パネルディスカッション（14：00～17：00）

テーマ：「授業アンケートの明るく、楽しい活用事例」

□問題提起

評判のよい授業展開の10ヶ条

安岡高志氏（立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター 副センター長）

□事例紹介

- ・「政治学入門」授業改善の試行錯誤：「苦手意識」の壁と対峙して
山田竜作氏（創価大学 学士課程教育機構）
- ・國學院大學における授業評価アンケートの実施と活用状況
小濱歩氏（國學院大學 教育開発推進機構）
- ・中部大発「魅力ある授業づくり」～主体的なFD活動と授業評価～
杉井俊夫氏（中部大学 大学教育研究センター副センター長）
- ・授業アンケートを用いた学習ポートフォリオ導入の効果検証～授業外の学習時間に注目して～
川那部隆司氏（立命館大学 教育開発推進機構）

□全体討論

このページは白紙です

2013年度活動報告および2014年度活動方針・計画

1. 2013年度 活動報告

(1) 総会等の開催

①総会

・2013年度 総会

日 時： 2013年6月15日（土）13:00～17:00

会 場： 立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館1階 230号教室

参加大学： 愛知大学・青山学院大学・神奈川大学・関西大学・関西学院大学・
九州産業大学・京都産業大学・甲南大学・國學院大學・芝浦工業大学・
創価大学・中央大学・中部大学・帝京大学・東京農業大学・東北学院大学
同志社大学・日本大学・法政大学・名城大学・立教大学・立命館大学・
龍谷大学・早稲田大学

オブザーバー： 関東学院大学

（*50音順、以下同様）

②幹事会

・2013年度 第1回 幹事会

日 時： 2013年6月15日（土）12:00～13:00

会 場： 立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館1階 244号室

参加大学： 関西大学・関西学院大学・創価大学・中央大学・同志社大学・法政大学・
立教大学・立命館大学・龍谷大学・早稲田大学

③幹事校ミーティング、会員校ミーティング

・2013年度 第1回幹事校ミーティング

日 時： 2013年12月23日（月）13:00～14:00

会 場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

参加大学： 関西大学・関西学院大学・創価大学・中央大学・法政大学・立教大学・
立命館大学・龍谷大学・早稲田大学

・2013年度 会員校ミーティング

日 時： 2013年12月23日（月）14:00～15:00

会 場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

参加大学： 愛知大学・青山学院大学・神奈川大学・関西大学・関西学院大学・
関東学院大学・國學院大學・国士舘大学・芝浦工業大学・創価大学・
中央大学・中部大学・帝京大学・東京農業大学・東洋大学・日本大学・
法政大学・明星大学・立教大学・立命館大学・龍谷大学・早稲田大学

・2013年度 第2回幹事校ミーティング

日 時： 2014年3月18日（火）13:00～15:00

会 場： 甲南大学 ネットワークキャンパス東京・岡本キャンパス

参加大学： 関西大学・関西学院大学・中央大学・同志社大学・法政大学・立教大学・
立命館大学・龍谷大学

④地域別企画

- ・東日本地域
開催なし

- ・西日本地域

「アクティブラーニングことはじめ at&from Kansai University」

日 時： 2014年1月25日（土）13：00～17：30

会 場： 関西大学 千里山キャンパス

備 考： 第10回関西大学FDフォーラムへの共催

⑤その他企画

- ・2013年度 パネルディスカッション

日 時： 2013年6月15日（土）14：00～17：00

会 場： 立命館大学 衣笠キャンパス

テ ー マ：「授業アンケートの明るく、楽しい活用事例」

問題提起

「評判のよい授業展開の10ヶ条」（立命館大学 安岡高志氏）

事例紹介

- 1 「『政治学入門』授業改善の試行錯誤：「苦手意識」の壁と対峙して」（創価大学 山田竜作氏）
- 2 「國學院大學における授業評価アンケートの実施と活用状況」（國學院大學 小濱歩氏）
- 3 「中部大学発『魅力ある授業づくり』～主体的なFD活動と授業評価～」（中部大学 杉井俊夫氏）
- 4 「授業アンケートを用いた学習ポートフォリオ導入の効果検証～授業外の学習時間に注目して～」
（立命館大学 川那部隆司氏）

参加大学：総会参加大学

関東学院大学、神戸学院大学、静岡大学、桃山学院大学

- ・2013年度 懇談会企画

日 時： 2013年12月23日（月）15：05～17：15

会 場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

概 要： 関東、関西各会場で以下のテーマ毎にグループ懇談を行った後、テレビ会議システムを利用した懇談のまとめを行った。

テーマA「授業改善アンケートは本当に必要か」

～有効な調査・実施方法、分析及びフィードバックについて～

テーマB「アクティブ・ラーニングを用いた正課および正課外授業支援の在り方」

～アクティブ・ラーニングの実効性について～

テーマC「学生発案型授業の必要性を問う」

～学生FDと教員FDの融合の可能性について～

参加大学：幹事校ミーティングおよび会員校ミーティング参加大学

(2) 広報活動

①ウェブサイト

- ・「全国私立大学FD連携フォーラム」ウェブサイトのデザイン編集
- ・会員校開催のフォーラム等企画案内の掲載

②ニュースレター

- ・「全国私立大学 FD 連携フォーラム News Letter No.5」発行（2013年9月）
- ・「全国私立大学 FD 連携フォーラム News Letter No.6」発行（2014年3月）

(3) 2013年度 新規加盟校

- ・2013年4月 日本大学
- ・2013年4月 愛知大学
- ・2013年7月 関東学院大学
- ・2013年9月 東洋大学

(4) 「実践的FDプログラム」

①オンデマンド講義の更新

- ・「高等教育論Ⅲ」江原武一（立命館大学）
- ・「授業設計論Ⅰ」沖裕貴（立命館大学）

②ワークショップの公開

- ・12講座の公開（於 立命館大学）

2. 2014年度 活動方針

2008年12月に10大学から開始した全国私立大学FD連携フォーラム（以下、フォーラム）も、2014年度6月時点で会員校32大学となり、毎年拡大を続けている。総会・パネルディスカッション、幹事会や幹事校ミーティング、会員校ミーティングに加え、懇談会企画や地域別企画等の諸企画を開催してきている。

2014年度は、以下を主な方針とする。

- (1) 会員校の連携および情報共有の強化（企画による場の提供やシステムの活用など）
- (2) 新規加盟の促進
- (3) 地域別企画の開催
- (4) 「実践的FDプログラム」の活用促進

3. 2014年度 活動計画概要

(1) 会員校の連携および情報共有の強化（企画による場の提供やシステムの活用など）

各種企画の実施を通じて情報共有を行い、一層の情報共有の強化に努める。2012年度に導入したFDデータベースシステムを活用することで、よりスムーズな情報共有をはかる。2014年度は以下の4点について、重点的に取り組む。

- ①定例の会議（総会、幹事会）および各種ミーティング（幹事校ミーティング、会員校ミーティング）を実施する。
- ②分野別企画やセンター長ミーティング、事務局ミーティングなどのグループ別企画を検討する。
- ③FDデータベースシステムを活用することにより、会員校のFD取組み状況などの情報共有を推進する。
- ④FDデータベースシステムを活用し、総会やミーティング資料などのフォーラム関連資料を蓄積・共有する。

(2) 新規加盟の促進

3大学程度の加盟を目指す。特に、新たな地域での連携（例：九州地域など）への働きかけを強化し、連携の展開を目指す。

(3) 地域別企画の開催

各地域の活動の活性化を図るため、地域別企画への共催制度を新たに設ける。共催制度には人的支援、資金的支援を含む。地域別企画の募集は地域担当幹事校が行う。

(4) 立命館大学「実践的 FD プログラム」の活用促進

フォーラムで開発を行い、現在立命館大学で開発運営を継続している「実践的 FD プログラム」についても、会員校でのより一層の活用促進をはかる。以下の2点について、引き続き取り組む。

①オンデマンド講義

- ・集合研修などで活用可能な「集合研修用 ID」を会員校へ配布し、より一層の活用を目指す。なお、非会員校に対しては、有償で提供する。
- ・会員校の登録アカウント数については、従来どおり申し込み数の上限を設けず、広く活用可能なものとする。
- ・通常の ID の申請状況や実際の活用状況、「集合研修用 ID」の活用状況を調査し、活用事例を共有する。

②ワークショップ

従来通り立命館大学で実施するワークショップを公開する。また、各大学での活用のため、ノウハウや必要な資料などを希望に応じて提供する。

4. 年間スケジュール

- 6月 幹事会、総会、パネルディスカッション
11月 会員校ミーティング、懇談会企画
3月 幹事校ミーティング
※随時、地域別企画等の諸企画を開催

全国私立大学FD連携フォーラム 2013年度決算
(2013年4月1日～2014年3月31日)

収入の部					単位:円
	予算額	決算額	比較増減	摘要	
1. 年会費	1,500,000	1,600,000	100000	・2013年度加盟大学(31大学)年会費 ・2012年度未徴収分(1大学)年会費	
2. 前年度繰越金	491,751	491,751	0		
合計	1,991,751	2,091,751	100000		
支出の部					
1. 総会関係経費					
	210,000	149,140	-60860		
事業推進費	150,000	92,980	-57020		
旅費	60,000	56,160	-3840	・2013年度総会 代表幹事校(法政大学) 交通費(2名)	
2. 通信費	50,000	94,168	44168		
3. 委託費	350,000	263,420	-86580		
JPDFホームページ関連	300,000	263,420	-36580		
FDデータベースシステム関連	50,000		-50000		
4. 印刷費	500,000	441,000	-59000		
5. ミニミーティング, 各種総議会関係経費	330,000	110,329	-219671		
会議関係費	30,000	13,869	-16131		
旅費	300,000	96,460	-203540	・2013年度幹事校・会員校ミニミーティング 事務局長(立命館大学) 交通費2名 ・地域別企画(西日本地域) 代表幹事校(法政大学) 交通費1名 ・2013年度幹事校ミニミーティング 事務局長(立命館大学) 交通費1名	
6. 予備費	551,751	53,815	-497936	・事務消耗品 ・2013年度地域別企画(西日本地域)共催費用 (関西大学・事務消耗品購入費用)	
7. 次年度繰越金	-	979,879			
合計	1,991,751	2,091,751	100000		

全国私立大学 FD 連携フォーラム 2013 年度 監査報告

全国私立大学 FD 連携フォーラムの 2013 年度（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）の
決算関係証憑類は適正に処理されており、正確であることを認め、ここに報告します。

監査役

神奈川大学 教育支援センター 課長

旭 馨 

関西学院大学 高等教育推進センター担当 課長

富田 則亨 

2014 年 5 月 16 日

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム幹事会
2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム総会

全国私立大学FD連携フォーラム 2014年度 予算
(2014年4月1日～2015年3月31日)

収入の部		予算額	備考
1. 年会費		1,600,000	2014年度加盟大学(32大学)年会費
2. 前年度繰越金		979,879	
	合計	2,579,879	
支出の部			
1. 総会関係経費		510,000	
	事業推進費	150,000	
	旅費	360,000	<ul style="list-style-type: none"> ・「旅費の支給について」(2013.12.23 幹事校ミーティング)に準じて、実費を支給。ただし、地域担当幹事校(各2名)については、往復30,000円として計上。 ・「監査方法の見直しについて」(2014.3.18 幹事校ミーティング)に準じて、実費を支給。ただし、監査校2校(各1名)については、計60,000円を計上。 ・パネルディスカッション(2014年6月)パネリストの旅費(交通費)について、実費を支給。ただし、パネリスト(4名)について、往復30,000円、計120,000円を計上。
2. 通信費		100,000	
3. 委託費		200,000	
	JPDFホームページ	150,000	
	FDデータベースシステム	50,000	
4. 印刷費		500,000	
5. ミーティング 各種懇談会関係経費		590,000	
	会議関係費	30,000	
	共催費	200,000	「企画への後援・共催の基準について」(2014.3.18 幹事校ミーティング)に基づき、共催(資金的支援)について、50,000円(各回・年間上限4回)を計上。
	旅費	360,000	「旅費の支給について」(2013.12.23 幹事校ミーティング)に準じて、実費を支給。ただし、地域担当幹事校(各2名)については、往復30,000円として、2回分を計上。
6. 予備費		679,879	
	合計	2,579,879	

単位：円

このページは白紙です

2014年3月18日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事校ミーティング

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事会

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 総会

2014年度の体制確認について（報告）

下記の通り、2014年度の体制を確認する。

代表幹事校 兼 地域担当幹事校（東日本地域）

法政大学

地域担当幹事校（西日本地域）

関西大学

任期の定めのある幹事校

創価大学、龍谷大学

監査校

神奈川大学、関西学院大学

事務局校

立命館大学

以上

このページは白紙です

新規入会校について（報告）

関東学院大学

入会 : 2013年7月
総会代表者 : 出石 稔 高等教育研究・開発センター長
学生数 : 11,101名（2013年5月1日現在）
参考：関東学院大学 ホームページ
<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>

東洋大学

入会 : 2013年9月
総会代表者 : 神田 雄一 FD推進センター長
学生数 : 29,200名（2013年5月1日現在）
参考：東洋大学 ホームページ
<http://www.toyo.ac.jp/>

福岡大学

入会 : 2014年4月
総会代表者 : 今泉 博国 教学担当副学長（教育開発支援機構長兼務）
学生数 : 20,417名（2013年5月1日現在）
参考：福岡大学 ホームページ
<http://www.fukuoka-u.ac.jp/>

このページは白紙です

2014年3月18日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事校ミーティング

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事会

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 総会

企画への後援・共催の基準について（報告）

標記の件について、下記の通り基準を設定する。

1. 後援について

- ・全加盟校が後援依頼を行うことが出来る。
- ・後援の上限回数は設けない。
- ・全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）の名義の使用を許可する。
- ・HP掲載、メーリングリスト等での広報に協力する。
- ・人的支援、資金的支援、会場支援等の支援は行わない。

2. 共催について

- ・東日本地域・西日本地域毎に、地域別企画として年2回（年間4回）を上限に、共催依頼を行うことが出来る。
- ・チラシ等の企画広報には、JPFFの名称、ロゴを掲載する。
- ・HP掲載、メーリングリスト等での広報に協力する。
- ・資金的支援として、1回の開催につき50,000円を支援する。本費用は企画の運営に係る費用（消耗品費、会議費用、会合費、謝礼等）として使用することができる。（年間予算額：200,000円）
- ・人的支援（会員校に対して、講演者・パネリストとしての参加、企画への参加要請等）についても、可能な範囲内で実施する。

3. 申請方法について

(1) 後援

企画開催1ヶ月前までに、所定の後援願を事務局校に提出し、代表幹事校が承認する。

(2) 共催

年2回を目処に、地域担当幹事校が企画募集を行う。

所定の共催願を地域担当幹事校に提出し、各地域幹事校、事務局の3校で回議の上、承認する。

以上



申請日： 年 月 日

後援願

以下の項目についてご記入ください。

代表者 氏名			
所属		役職・職名	

後援を依頼する企画について

企画名	
日時	
会場	
企画趣旨	

【後援について】

- ・全国私立大学FD連携フォーラムの会員校が後援を依頼することが出来ます。
- ・全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）の名義の使用のみを許可します。
人的支援、資金的支援、会場支援等の支援は行いません。

受理日： 年 月 日
承認日： 年 月 日



共催願

以下の項目についてご記入ください。

代 表 者 氏 名			
所 属		役 職 ・ 職 名	

共催を依頼する企画について

企 画 名			
日 時			
会 場			
企 画 趣 旨			
<p>(資金的支援) 使用計画について簡単にご記入ください。 なお、使用用途は企画運営に係る費用(消耗品費、会議費、会合費等)とします。</p>			
<p>(人的支援) 会員校に対して、講演者・パネリストとしての参加、企画への参加要請等がある場合、ご記入ください。</p>			

【共催について】

- ・ 東日本地域・西日本地域毎に、地域別企画として年2回(年間4回)を上限に、共催依頼を行うことができます。
- ・ 企画広報には、全国私立大学FD連携フォーラムの名称、ロゴを掲載してください。
- ・ 資金的支援として、1回の開催につき50,000円を支援します。
- ・ 人的支援(会員校に対して、講演者・パネリストとしての参加、企画への参加要請等)についても、可能な範囲内で支援します。

受理日： 年 月 日

承認日： 年 月 日

このページは白紙です

2014年3月18日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事校ミーティング

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 幹事会

2014年6月14日 全国私立大学FD連携フォーラム 総会

監査方法の見直しについて（報告）

標記の件について、下記の通り監査方法の見直しを行う。

1. 監査手順の見直しについて

従来、郵送による監査を実施してきたが（図参照）、監査役2校による事務局校に対する訪問調査（ヒアリング・インタビュー）と、事務局校が管理している文書・記録類の確認による手順への見直しを実施する。

2. 監査役について

従来、センター長が監査役を務めてきたが、監査方法の見直しに伴い、監査役は監査校からの代表者1名を選出し（役職を問わず）、事務局校での監査を担当する。

3. 見直しによって生じる費用について

- ・監査役（2校）の往復交通費を予算に計上し、実費を支給する。
（予算額：50,000円）

<全国私立大学FD連携フォーラム規約より抜粋>

【監査役】

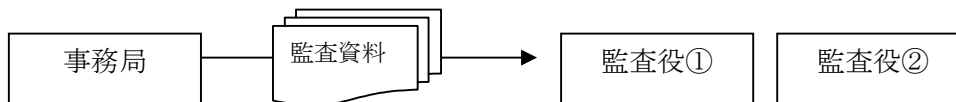
第9条 本フォーラムに監査役2校を置く。

2. 監査役は、会員校の中から選出し、総会で承認し、会計を監査する。
3. 監査役の任期は、2年とする。

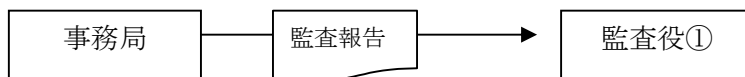
以上

(図) 従来の監査方法

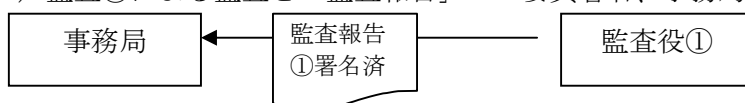
1) 事務局から監査役2校に、監査資料を送付



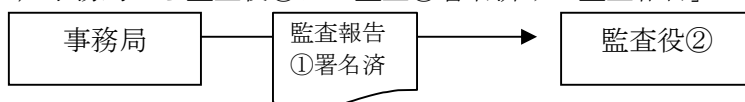
2) 事務局から監査役①に「監査報告」の送付



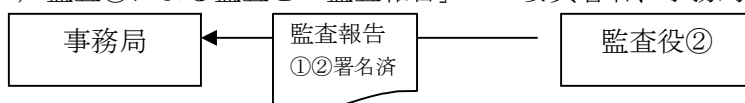
3) 監査①による監査と「監査報告」への委員署名、事務局への返送



4) 事務局から監査役①に「監査①署名済みの監査報告」の送付



5) 監査②による監査と「監査報告」への委員署名、事務局への返送



フォーラム企画等における講師依頼について(申し合わせ事項の変更)(報告)

「フォーラム企画等における講師依頼について」(2011年7月9日総会)で承認された申し合わせ事項について、以下の通り、変更する。

現行	変更後
<p>1. 旅費(交通費)</p> <p>1) 会員校以外から講師を招聘する場合 実費を支給する。</p> <p>2) 会員校から講師を招聘する場合 支給しない。派遣大学内での対応とする。</p> <p>2. 謝礼</p> <p>1) 会員校以外から講師を招聘する場合 謝礼を支払う。謝礼額は30,000円を基本とする。ただし、講師の経歴を勘案し、上限50,000円とする。</p>	<p>1. 旅費(交通費) <u>実費を支給する。</u></p> <p><u>旅費(交通費)は、順路に従い、最も経済的かつ合理的な経路および方法により算定し、支給する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・交通費は、鉄道賃および航空運賃とする。</u> <u>・鉄道賃は、JR起点駅と用務地に最も近いJR駅間の往復にかかる通常期料金とする。</u> <u>・新幹線を利用する区間は、新幹線の普通車指定席券相当分の金額とし、グリーン料金は支給しない。</u> <u>・航空機を利用する場合は、半券・請求書を提出の上、エコノミークラスの運賃(実費)を支給する。</u> <u>・この基準以外の支給となる場合は、幹事校ミーティングで検討し、承認を得たうえで対応する。</u> <p><u>2. 旅費(宿泊費)</u> <u>原則として支給しない。</u> <u>ただし、やむをえず宿泊が必要な場合について、事前に代表幹事校の承認を得て、実費を支給す。</u> <u>支払にあたっては、領収書を必要とし、支払の上限は、1泊につき12,000円とする。</u></p> <p><u>3. 謝礼</u> (以下現行どおり)</p>

<p>2) 会員校から講師を招聘する場合 原則として支払わない。ただし、講師の職務と異なる依頼内容の場合は別途判断し、支払う場合がある。</p>	
--	--

2014年度 実践的FDプログラム オンデマンド講義一覧

※「分類」は、「E」=「教育」、「R」=「研究」、「A」=「管理運営」があります。

※「対応レベル」は、「レベル1」=新任教員向け、「レベル2」=一般教員向け、「レベル3」は管理職にある教職員向けとして構成しています。

※「日本語/英語」は、それぞれの対応言語を示しています。それぞれの仕様についてはサンプルをご参照ください。

分類	対応レベル			分野	テーマ	講師	所属 (撮影時)	日本語 /英語	
	LV1	LV2	LV3						
E	教育	●	●	●	高等教育論Ⅰ	現代の高等教育	金子 元久	東京大学	日・英
E	教育		●	●	高等教育論Ⅱ	高等教育研究史	有本 章	比治山大学	日
E	教育	●	●	●	高等教育論Ⅲ	大学改革とFD研究	江原 武一	立命館大学	日・英
E	教育	●	●	●	高等教育論Ⅳ	大学評価論	安岡 高志	立命館大学	日・英
E	教育		●	●	高等教育論Ⅴ	大学の国際化	モンテ・カセム	立命館大学	日・英
E	教育		●	●	高等教育論Ⅵ	高等教育政策：戦後日本の大学政策 (転換期の大学政策、海外との比較)	高野 和子	明治大学	日
E	教育	●	●	●	高等教育論Ⅶ	接続教育：初年次教育の取組	山田 礼子	同志社大学	日
E	教育	●	●		教授学習理論Ⅰ	教授・学習の理論と教育実践 (1)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
E	教育	●	●		教授学習理論Ⅱ	教授・学習の理論と教育実践 (2)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
E	教育	●	●		教授学習理論Ⅲ	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦 真琴	関西大学	日
E	教育	●	●		教育方法論Ⅰ	教育工学の観点から	林 徳治	立命館大学	日・英
E	教育	●	●		教育方法論Ⅱ	高等教育における授業技術	木野 茂	立命館大学	日・英
E	教育	●	●	●	教育方法論Ⅳ	学習教材作成における著作権等の理解	坂井 知志	常盤大学	日
E	教育	●	●		教育方法論Ⅴ	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡 高志	立命館大学	日
E	教育	●	●		教育方法論Ⅵ	情報活用基礎： ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島 英博	名城大学	日
E	教育	●	●	●	授業設計論Ⅰ	大学の授業の設計	沖 裕貴	立命館大学	日・英
E	教育	●	●		授業設計論Ⅱ	授業設計と授業方法・技術・評価	横田 学	京都市立 芸術大学	日
E	教育	●	●		教育評価論Ⅰ	成績評価の意味と方法	鳥居 朋子	立命館大学	日・英
E	教育	●	●		教育評価論Ⅱ	目標測定に基づく評価	野嶋 栄一郎	早稲田大学	日
E	教育	●	●	●	教育評価論Ⅲ	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田 佳代子	大学評価・ 学位授与機構	日
E	教育	●	●		心理学Ⅰ	青年期の心理	白井 利明	大阪教育大学	日・英
E	教育	●	●		心理学Ⅱ	発達の原理と各段階の特性	西垣 順子	大阪市立大学	日・英
E	教育	●	●		心理学Ⅲ	臨床心理学の基礎と応用	串崎 真志	関西大学	日・英
E	教育	●	●	●	心理学Ⅳ	発達障害のある学生の学び ーアスペルガー症候群を中心にー	荒木 穂積	立命館大学	日
R	研究	●	●	●	研究者倫理Ⅰ	教員と学生の教育・研究を促進する ツールとしての研究倫理	望月 昭	立命館大学	日
R	研究	●	●		研究のアウトリー チ活動Ⅰ	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田 利弘	東京大学	日
A	管理 運営	●	●		大学管理運営Ⅰ	大学教職員のための大学管理運営基礎	肥塚 浩	立命館大学	日・英
A	管理 運営	●	●		大学管理運営Ⅱ	近年の大学改革の進展を踏まえた 大学管理運営の新たな発想	山本 眞一	広島大学	日・英
A	管理 運営	●	●	●	大学管理運営Ⅲ	リスクマネジメント： 大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口 博	東京ゆまにて 法律事務所	日
A	管理 運営		●	●	大学管理運営Ⅳ	IR入門	鳥居 朋子	立命館大学	日
A	管理 運営			●	大学管理運営Ⅴ	業務改善のためのIR	池田 輝政	名城大学	日
A	管理 運営			●	大学管理運営Ⅵ	ADMINISTRATIVE STAFF DEVELOPMENT	ブルース・スト ロナク	デンプル大学 ジャパン	日・英
A	管理 運営		●	●	大学管理運営Ⅶ	PDCAを理解する	安岡 高志	立命館大学	日
A	管理 運営	●	●		大学管理運営Ⅷ	教職協働による大学運営	大島 英穂	立命館大学	日
A	管理 運営	●	●	●	FD概論Ⅰ	大学におけるマイクロ・ミドルレベルでのFD活動	佐藤 浩章	愛媛大学	日
A	管理 運営		●	●	FD概論Ⅱ	大学におけるマクロレベルでのFD活動	川島 啓二	国立教育政策 研究所 (社)	日
A	管理 運営		●	●	プロジェクト・ マネジメント	FD活動推進等の大学経営革新に活かす プロジェクトマネジメント	牧野 光昭	日本能率協会	日

2014年度 実践的FDプログラム(ワークショップ)について

各回の詳細は JPFF ホームページでお知らせいたします。

開催日	講座名・テーマ	到達目標
4月26日(土) [衣笠]	「教授学習理論演習Ⅰ」 アクティブ・ラーニングの 方法と実践 ～ピア・サポーターの活用を中心に	①ピア・サポーターを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、 実践することができる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、 自らの授業を省察できる(態度)
4月26日(土) [衣笠]	「教授学習理論演習Ⅱ」 アクティブ・ラーニングの方法と 実践 ～ICTの活用を中心に	①ICTを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することが できる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、 自らの授業を省察できる(態度)
8月1日(金) [朱雀]	「教育方法論演習Ⅱ」 良い授業のための留意点 -話し言葉に着目して ～図形並べ	①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを 体験する(知識) ②フィードバック(質問、聞き直し)がある場合とない場合で、どの程度 口頭による指示の伝達が異なるかを体験する(知識) ③教員が得意とする言語情報(verbal communication)の限界を体験 する(知識、技能)
8月1日(金) [朱雀]	「教育方法論演習Ⅲ」 良い授業のための留意点 -非言語・視覚情報の応用 ～無言面接	①自分の表情、アイコンタクト、態度が他人に与える印象を知る(知識) ②状況に応じて自分が相手に好印象を与える表情、態度、アイコンタクトを 演じることができる(技能)
9月16日(火) [朱雀]	「授業設計論演習Ⅰ」 シラバスと授業の到達目標の書き方	①シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能)
9月16日(火) [朱雀]	「授業設計論演習Ⅱ」 強制連結法による授業設計	①強制連結法を用いて授業を設計することができる(技能)
9月16日(火) [朱雀]	「授業設計論演習Ⅲ」 マイクロティーチングと評価	①強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる(技能) ②公開授業等において、授業評価を行う際に求められる観点を知り、 適切な評価を行うことができる(技能、態度)
9月17日(水) [朱雀]	「教育評価論演習Ⅰ」 学習到達度評価 ～ルーブリック評価の実践	①授業の到達目標に合った試験、課題等が作成できる(技能) ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる(技能) ③評価結果を学生にフィードバックすることができる(技能)
11月1日(土) [朱雀]	「心理学演習Ⅰ」 聴き手に求められる力	①聴き手の姿勢や態度が話し手の話す意欲に影響することに気づく(技能) ②話す意欲を高める/損なう要因を知る(技能)
11月1日(土) [朱雀]	「教育評価論演習Ⅱ」 ～ティーチング・ポートフォリオの作成	①実際のシラバス教材、評価アンケートの結果など、自分の教育活動の 根拠となる資料を用いて、ティーチング・ポートフォリオを作成することが できる(技能) ②授業改善のためティーチング・ポートフォリオを積極的に活用する(態度)
12月6日(土) [朱雀]	「心理学演習Ⅱ」 受容的に聴く力 ～イヌ・バラ法	①イヌ・バラ法を用い、「あいづち」や「相手の言葉を繰り返す」技術を 身に付ける(技能) ②相手の話の背景にある意見や気持ちを思い浮かべることができる(技能)
12月6日(土) [朱雀]	「心理学演習Ⅲ」 アサーション・トレーニング	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知る(技能) ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導ができる(技能)

* 衣笠：立命館大学 衣笠キャンパス、朱雀：立命館大学 朱雀キャンパス

会場・日時の詳細スケジュールについては、随時、教育開発推進機構 HP に掲載いたします。

➤ HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/index.html>

2013年度 実践的FDプログラム 申込状況

(50音順)

J P F F 会員校

1	青山学院大学	94
2	関西大学	32
3	甲南大学	131
4	國學院大學	93
5	芝浦工業大学	5
6	創価大学	43
7	帝京大学	47
8	同志社大学	14
9	東北学院大学	53
10	日本大学	23
11	立教大学	32

J P F F 非会員校

1	大阪大学	29
2	北九州市立大学	25
3	東京慈恵会医科大学	3
4	長崎国際大学	9

このページは白紙です